

事業名	地域ブランド推進事業
-----	------------

総事業費	3,550 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	"種子島"安納いもの地域ブランドの確立 K-GAP申請者の支援を行い、安心安全な取組を行ってもらう。	
事業の実績 と成果	取組内容	・ 安納いものブランド推進本部運営（総会、幹事会、担当者会）、種子島安納いものブランド化研修会の開催、PR・販売促進活動（全共・福岡・さつまいも博など） ・ 食の安心・安全に関する研修会への参加、K-GAP取得支援、農産物流通研修会への参加
	成果	市内の農産物の安心・安全に対する取組（K-GAP）に際し、関係機関と連携することができた。また、大消費地への販売促進ができない中ではあったが、地理的表示（GI）の「種子島安納いもの」やかごしまブランドの「ブロッコリー」「レザーリーフファン」など、西之表市で作付されている品目の更なるブランド力の向上に努める必要がある。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・ 「種子島安納いもの」の更なるブランド力の向上に向けての取組強化（産地ビジョンの修正、新しいロゴやパンフレットの検討・作成など） ・ かごしまブランド品目への支援等
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大やサツマイモ基腐病の影響がある中、霧島市で行われた全国和牛共進会における出店や福岡市博多駅内でのPRイベント参加、東京都内で行われたさつまいも博などへの参加を通じて販売促進活動を行った。一方、令和4年3月に地理的表示（GI）保護制度に登録された「種子島安納いもの」について、県知事や地元メディアへの訪問を通じてPRに繋げることができた。GI登録後、加工販売業者等からの問合せが増えており、今後、関係機関と連携を図りながら、統一的な基準づくりや更なるブランド力の向上と信頼に繋げられるよう産地一体となって如何に取り組んでいくかが課題である。 また、新たにJA種子屋久に出荷される種子島のブロッコリーがかごしまブランドに認証されたことから、「レザーリーフファン」などとあわせて、西之表市で作付されている品目の更なるブランド力の向上に努める必要がある。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	GIに登録された「種子島安納いもの」の更なるブランド力向上を目指すため、ブランド戦略を策定し、関係機関一体となって、消費者及び市場等へPRを行っていく。また、ブロッコリーやレザーリーフファンなどのかごしまブランド品目についても、ブランド力向上を目指して、関係機関と取り組む。
-----------	---

事業名	環境保全型農業直接支払交付金事業
-----	------------------

総事業費	630 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	環境保全型農業の面積の拡大、取組者の増加	
事業の実績 と成果	取組内容	地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動として、有機農業の取組を行った。
	成果	有機農業の取組を茶、さとうきび、青果用さつまいも等で行った。有機農業に取り組む農業者が増え、取組者5名補助金交付面積は525 aの実績であった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業をしていく中で、担当者レベルで有機農業についての知識が少なく、また研修等もないため、有機農業であるかの見極めが難しい。 有機農業に関心のある農業者が増えつつあり、国もまた有機ほ場の面積増加を図るため、令和4年度から様々な事業を展開しているが、県など関係機関に専門の指導者がいないため、専門的指導ができず、慣行栽培から有機栽培への推進も難しい。（農業（有機）を始めたとしても生活できるだけの収入を得るのが難しい。）
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農林水産省は令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」の中で、有機農業を2050年までに耕地面積の25%、100万haに拡大することとしている。令和4年度は、この法に基づき、県と市町村が共同で県基本計画の策定し、国からの同意を得て、県HPで公表した。 本市においても、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業に関心を持つ農家が少しずつ増えており、面積も拡大しつつある。 一方、計画の目標達成に向けて、環境負荷低減事業活動の促進をしていくこととなるが、県や市など関係機関に専門の指導者がいないため、体制的に専門的指導や推進が難しく課題となっている。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	有機農業や環境負荷低減に取り組んでいる農業者へ対して環境保全型農業直接支払交付金について周知する。 技術的な面を指導することは難しいが、有機に関する研修会や情報交換等の場が昨年から増え始めているので、そういった情報を提供し、環境に配慮した栽培方法に関心のある農業者や有機栽培への転換者増を図る。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	農水産物輸送コスト支援事業
-----	---------------

総事業費	19,978	千円
------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	島外への農水産物の輸送量の増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	協議会運営、補助金の申請書類作成の支援、関係機関（国・県等）への実績報告を行った。
	成果	輸送費の支援を行い、農家の農業経費の低減を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	輸送費の支援を行うことで、農家の輸送経費の低減及び販路拡大が図られることから有効である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	引き続き輸送コストの負担軽減を図り、生産者の生産意欲の向上及び農産物の販路拡大に努める。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	園芸品目増収省力化促進事業
-----	---------------

総事業費	61 千円
------	-------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	作業の省力化による面積拡大、収量増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	現地研修会やチラシの配布にて、事業の広報を行った。
	成果	今年度はブロッコリーの収穫用台車について、2台助成を行った。 ブロッコリーについては、昨年に引き続き、サツマイモ基腐病による減収を補うため、後作としてブロッコリーを生産、結果、事業が有効に活用された。 スナップエンドウは、資材設置の労力と費用、必要性から事業の活用がなかった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	作業の効率化や品質向上を目的に、ブロッコリーの台車とスナップエンドウのあられ除け資材の一部助成を3年間実施し、あられ除け2名、台車13名へ助成。当初の計画通り、台車とあられ除け資材の補助は令和4年度で終了し、令和5年度からは植付時の資材と収穫時の省力化資材を助成予定。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度のブロッコリーは、サツマイモ基腐病の被害拡大から、後作として作付面積が拡大している。また、JA種子屋久は、ブロッコリーにおいて、「かごしまブランド」の認定団体として登録され、産地の安定的な生産出荷体制が図られつつある。 また、今年度も収穫用台車を助成し、労力軽減による作業効率の向上を図った。ブロッコリーについては、JAを中心に集荷体制が強化されつつあるが、他産地との関係から市場の値段が昨年度よりも低くなっており、さらなる品質及び反収の向上が課題である。 また、スナップエンドウについては、令和5年1月下旬の大寒波の影響があったが、今後、産地を守るため防除対策として効果的な方法を模索したい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	ブロッコリー、スナップエンドウは栽培面積も多く、本市の栽培作物の中でも代表的なものの一つとなっている。両者ともに植付から収穫までの期間が短く、収穫が一斉に始まるため、省力化のための資材の必要性は大きい。令和5年度はブロッコリーの植付資材とスナップエンドウの収穫資材で作業の省力化を図る。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	さつまいも振興対策事業
-----	-------------

総事業費	17,772 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	サツマイモ基腐病等の病害虫を抑制し、生産量の確保を図る。	
事業の実績と成果	取組内容	防除支援員による圃場巡回及び講習会等での技術指導を強化した。当年産に対する殺菌剤購入費の一部助成及び被害を受けた農家へ助成金支給並びに貸付金利子を助成するなど経営対策を行った。また、次期作への対策として、残渣処分場を開設し適正処分を推進した。
	成果	防除支援員の巡回指導により、農家の防除意識及び防除技術の向上が図られた。収穫量は昨年度と比較し大きな伸びは見られなかったが、サツマイモ基腐病の発生率は減少した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	総合的な防除を農家が継続して実践するには、相当の労力と経費が必要であることから、継続的な支援が必要である。 早期植付・早期収穫を推進しているが、増殖用バイオ苗及び本圃用苗の供給が遅れたことにより計画通りに早期植付ができなかった圃場があった。
評価結果の根拠及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度はサツマイモ基腐病対策として、新たに排水対策や土壌改良を行う農地耕作条件改善事業、収穫後の早期耕耘を推進するための生分解性マルチ助成等を行った。また、併せて防除支援員2名による巡回指導等を行うとともに、国等の事業を活用した農薬等資材の購入助成、残渣処理場の拡充等に取り組んだ。さらに県やJA等と連携し、生産農家に対する講習会やチラシ・防災無線を通じた広報活動を行い、防除の徹底に努めた。この結果、梅雨明けも早く9月までの降雨が少なかった気象的な要因もある一方で、農家による防除対策の効果もあり、前年度よりも生産量を確保することができた。基腐病への対応については、異常株の抜取りや農薬等による早期防除等、育苗から本圃での生育管理、収穫後の残渣処理等すべての工程で、基本的な防除マニュアルを徹底する必要がある、対応する農家によって、生産量に差が生じていることから、きめ細かな支援により、生産農家への防除指導の徹底を図り、如何に実践してもらうかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	昨年度様々な防除対策を推進したものの、さつまいも全体の生産量の回復にはつながらなかったが、新年度においても基本的な防除対策の励行徹底を図り、生産量の回復及び農家の所得向上を目指す。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	さつまいも重要病害虫防除支援員による圃場巡回

事業名	安納いもバイオ苗増殖運営事業
-----	----------------

総事業費	1,097 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	安納いもの生産量拡大・栽培面積の維持・拡大。	
事業の実績 と成果	取組内容	安納いものサツマイモ基腐病対策としてバイオ苗を利用してもらうため、増殖育苗施設を管理し、苗の増殖を行い生産農家へバイオ苗（ウイルスフリー苗）を提供する。①委託業者の選定②委託契約③広報④苗申込集計⑤苗配布⑥実績報告⑦完了検査⑧委託料請求
	成果	農業振興公社へ業務を委託し、令和4年6月23日～令和5年3月24日までに安納いもブランド推進本部の会員へ33,615本（紅30,190本,こがね2,725本,ゴールド700本）を供給した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<ul style="list-style-type: none">・苗の生育状況把握や配布状況等について、公社と密に連絡を取り、報告を行ってもらう必要がある。・農家との苗配布調整がうまくいかず、配布が遅くなってしまう場合がある。・冬場に苗の伸びが悪くなり、配布が出来ない状況が続くため、できるだけ冬場の注文は避け、分散してもらうようにする。・本事業は公社に委託しているが、作業をしていた職員の退職により、公社が委託を受けられるかが課題となっている。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農業振興公社によるバイオ苗の増殖・供給については、本市の安定生産及びブランド化の為に重要な役割を果たしている。特に、サツマイモ基腐病が拡大する中、健全苗の育苗及び供給が求められている。なお、昨年度まで、安納紅で節間の長い「ながつる（徒長苗）」について課題となっていたが、令和4年度より県熊毛支場による優良選抜によって節間の短い「安納紅3-5-2」をバイオ苗として提供することができた。 引き続き、公社と連携を図りながら健全苗として安定的に提供できる体制を継続していきたい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	安納いものサツマイモ基腐病対策としてバイオ苗を利用してもらうため、増殖育苗施設を管理し、苗の増殖を行い生産農家へバイオ苗（ウイルスフリー苗）を提供する。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	安納いも育苗資材支援事業
-----	--------------

総事業費	0 千円
------	------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	安納いもの生産量拡大・栽培面積の維持・拡大	
事業の実績 と成果	取組内容	①要望 ②内示 ③事業説明 ④交付申請 ⑤交付決定 ⑥取下げ申請 ⑦取下げ承認
	成果	バイオ苗（ウイルスフリー苗）増殖に係る施設整備をした生産者はいなかった。 【生産資材の高騰、基腐病によりさつまいも生産量・収益減となったため、要望取下げがあった】

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	増殖施設の資材高騰により、当初積算より事業費が増加しているため、補助金の上限について見直す必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農家が育苗床を確保することで計画的な生産が可能となり、面積拡大及びさつまいも基腐病対策としての早期植付が可能となることから本事業は有効である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	本市の特産品である安納いもについて、農家のウイルスフリー苗増殖に係る施設整備経費の一部を助成し、優良種苗の生産・安定出荷・農家所得向上を目指す。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	各種伝染病発生予防事業
-----	-------------

総事業費	1,243 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	・和牛子牛の死亡頭数の減少 ・牛ポツリヌス症（発症疑いも含む。）の発生防止	
事業の実績 と成果	取組内容	子牛の死因割合の高い呼吸器系や消化器系の予防、本市で発生事例のあるポツリヌス症予防のためにワクチン接種を行い薬価代の助成をした。
	成果	子牛価格の高騰もあって疾病予防の意識が高まり、接種頭数は増加した。 また、昨年度にポツリヌス症疑いの発生があったことから、再発防止のため協議会で呼びかけを行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	ポツリヌスワクチンに関しては、和牛・乳牛と接種頭数が増加したが、ポツリヌス症の発症から年月が過ぎると接種頭数が減少する傾向がある。 実際に令和3年度のワクチン接種頭数2,249頭に比べて、令和4年度は1,181頭であった。 ポツリヌス症への対策としては、現在のところワクチン接種しかないため、今後も継続して農家に周知を行い、接種頭数の維持・増加に努める。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	家畜伝染病の予防効果は、集団予防をすることでより高い効果が得られることから、本事業は有効である。また、病気を予防することにより治療費削減や死廃頭数の削減につながり、収益性向上が図れる。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	家畜保健所等の関係機関と連携し、畜産農家への周知を徹底する。
-----------	--------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	種子島あかおぎ牛導入支援事業
-----	----------------

総事業費	94 千円
------	-------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	優良繁殖雌牛の血統作りによる優良血統子牛の生産による家畜の改良と畜産生産額向上を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	旧制度の返納審査や、新制度で牛の貸付を行った。
	成果	家畜セリ市にて、8頭の優良雌牛の貸付を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	原則として市内産の雌牛しか導入できないため、貸付がなかなか進まない。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度は、8頭の雌子牛の貸付を行い、優良血統による繁殖基盤の確立に向け和牛農家の収益の安定を図った。 また、これまで課題となっていた家畜改良増殖法の改正に伴う対応や市場性の高い雌子牛の導入等を考慮した制度の見直しを昨年度行い、令和4年度から新制度のもとで貸付を行い充実を図ることができた。 一方、原則として市内産の雌牛しか市場で導入できないこととしているため、候補となる優良雌牛の対象が限定され、さらに多数購買者がいる中で確実にセリ落とすことが困難な場合もあり、貸付がなかなか進まないことが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	貸付の回転率を高めるため、原則として市内産ではなく、熊毛地区の優良雌牛が導入できるよう制度の改善を図る。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	畜産経営総合支援事業
-----	------------

総事業費	731 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	新規就農者の初期投資の負担を抑え、経営の安定を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	畜産農家2名（肉用牛繁殖1名、養鶏1名）に対して、それぞれ畜産機材・資材（カッター・電牧柵）、養鶏雛(1,237羽)の導入及び畜産機材・資材（段ボール・卵パック・ロール）の導入支援を行った。
	成果	本事業の活用により、初期投資の軽減を図ることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	増頭・増羽により、飼養設備に空きが無くなってきているが、新設や増設には莫大な金額がかかるため、なかなか投資できないのが現状である。 牛舎及び鶏舎に対する助成金額の拡大や、近年の資材高騰による経営圧迫に対する助成が求められる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、畜産新規就農者が安定した経営が行えるよう、家畜導入費及び機械導入等に係る経費の一部を助成するものである。 令和4年度については、農家2名から申請があり、うち肉用牛繁殖農家については新規就農者であり、畜産機材・資材（カッター・電牧柵）の導入支援、養鶏農家については、養鶏雛(1,237羽)の導入及び畜産機材・資材（段ボール・卵パック・ロール）の導入支援を行った。 畜産経営を開始する際の経費を軽減することで、如何にして担い手の確保に繋げていくかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	畜産新規就農者が安定した経営が行えるよう、家畜導入及び機械導入等に係る経費の一部を助成する。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	茶業経営緊急対策支援事業
-----	--------------

総事業費	2,140 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	荒茶加工場にかかる燃油高騰に対する支援を実施し、経営を継続させる。	
事業の実績 と成果	取組内容	使用した燃料費に対して1/2以内を助成
	成果	本事業の支援により茶工場の経営及び継続の支援につながった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、燃油高騰等により茶業経営に影響が出ている市内5茶工場を対象に、使用した燃料費に対して1/2以内を助成したものである。茶業については、ここ数年荒茶価格が全国的に低迷しており、特に令和2年度においては、過去最低の水準となり、昨年度やや回復したものの、依然として厳しい状況が続いている。 こうした中、加工場の操業に必要な燃料費の高騰は、経費をさらに圧迫し、経営が困難な状況となっており、緊急的に支援を行った。茶業農家数は、令和2年度38名から、令和4年度は24名と14名減となっており、令和3年度に安納にあったJA茶工場が閉鎖して以降、茶農家減少に拍車がかかっている。厳しい経営状況の中、如何に茶業を継続していくかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	事業終了
-----------	------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	耕種農家経営緊急対策支援事業
-----	----------------

総事業費	30,214 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	農家の経営安定と生産基盤の維持を図り、経営継続の支援をする。	
事業の実績 と成果	取組内容	令和3年度の肥料購入費に対し高騰分（約3割）の1/3を支援（1農家あたり2,000,000円を上限とする）。
	成果	本事業の支援により農家の経営及び継続の支援につながった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし。 ※作物によっては、市で把握できない（個販）農家が存在。対象を把握できないため、事業実施時に想定外の事例がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、農業資材高騰等により農業経営に影響が出ている耕種農家を対象に、令和3年度の肥料購入費に対し高騰分（約3割）の1/3を助成したものである。耕種農家においては、肥料価格が上昇し、夏・秋費については、3割から4割程の大幅な値上げとなった。通常、収穫売上から、経費の支払が行われるが、サツマイモ基腐病等、作柄によって収入の見込みが不安定であり、市独自の支援策を行うことで、経営の下支えとしたものである。資材高騰が長期化した場合、農業経営がさらに厳しくなるため、状況を注視しているところである。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	事業終了
-----------	------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	耕種農家経営緊急対策支援事業
-----	----------------

総事業費	62,554 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	新型コロナウイルス感染症拡大による収入の減少や、原油、資材、エサの高騰などで厳しい状況の中、支援金を支給することで、畜産農家の影響を緩和し、畜産経営を維持継続させる。	
事業の実績 と成果	取組内容	各畜産農家の飼養種類ごとに1頭当たりの単価を設定し、飼養種類ごとに設定された品質向上のための取組を2つ以上実施している場合にはさらに加算をして飼養頭数に対して支援金を支給する（1農家あたり2,000,000円を上限とする）。
	成果	本事業の支援により畜産農家の経営及び継続の支援につながった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、飼料高騰等により農業経営に影響が出ている畜産農家を対象に、各畜産農家の飼養種類ごとに1頭当たりの単価を設定し、飼養種類ごとに設定された品質向上のための取組を2つ以上実施している場合にはさらに加算をして飼養頭数に対して支援金を支給したものである。肉用牛については、新型コロナウイルス感染症が長期化しつつも、徐々に需要が戻り、価格も回復しつつあったが、ウクライナ侵攻や円安の為替相場等で飼料が高騰し、令和4年5月の子牛セリ以降、前年より大幅な下落となっている。また、乳用牛につきましても、乳価が上がりにくい中で、飼料等の高騰が経費を圧迫し、経営が困難な状況が続いている。畜産は、本市農業生産額の3分の1を占める重要な産業であるが、如何に維持していくかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	事業終了
-----------	------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明